

1-A-2.

食品加工メーカー共同配送研究会

(ミツカングループ、日清オイリオグループ、カゴメ)

<カゴメ(株)>

1. 概要

項目	内容
物流共同化のタイプ	同業他社との物流センター共同化 同業他社との配送の共同化
主な対象貨物	食料品・飲料
導入時期	1996年

2. 背景（実施理由、狙い、導入の経緯）

1) 実施理由

- ・ 物流コストの削減
- ・ トラック台数の削減
- ・ 環境問題(CO₂、NO_x・PM、騒音問題)への対応
- ・ その他

2) 狙い

- ・ 得意先への物流品質、物流サービスの向上
→得意先への物流品質向上と対象エリア全体の受注翌日納品の実現
- ・ 得意先での荷受業務の効率化
→3社の商品を一括納品することによる得意先の荷受け業務の効率化
- ・ 物流効率化によるコストダウン
→専用便化や車両の大型化による配送コストの低減
- ・ 社会環境への貢献
→納品車両台数の減少、大型化により、排出ガスの削減や交通渋滞、得意先での騒音の抑制などに貢献

3. 対策効果

項目	対策効果 (実施前を100とした場合の実施後の数値: 実施後/実施前×100)
輸送コストの対策効果	90~95%
トラック使用台数の対策効果	80~85%
燃料使用量(又はCO ₂ 排出量)の対策効果	80~85%

- ・ 共同配送システムの確立
- ・ 物流サービスの向上
- ・ 物流品質の向上
- ・ 物流合理化による一定のコストダウン
- ・ S研3社の全出荷拠点の物流品質向上
- ・ S研3社の社内意識の高揚

4. 課題

取り組みの前提条件はいろいろあるが、特に次の3点がポイントである。

- ・ 各社の納品条件の統一
- ・ 各社のイレギュラー納品の廃止
- ・ 各社の言語、運用、手法、指標の統一化